

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道清里高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☒ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒099-4405

北海道斜里郡清里町羽衣町38番

E-mail kiyosato-z0@hokkaido-c.ed.jp

Website http://www.kiyosato.hokkaido-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 36 名 女子 46 名 合計 82 名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「地域との連携を重視した教育活動や学校運営」を大きな活動テーマとして、ESDを教育課程全体に関わるものとして包括的に捉え、ESDの実践を通して、生徒が本校の地域での役割を果たし、人とのつながりを実感できる教育を推進している。

具体的には、町教委と連携しているニュージーランドへの海外派遣研修、交換留学制度を軸にした①国際理解教育の推進、地域の関わりやつながりを尊重できる力を育むために地域ボランティアなどを行う②地域連携、前述の2つ以外の活動を③その他としている。

① 国際理解教育の推進

国際理解教育の中心となっているのが、1年生で行われるニュージーランドへの海外派遣研修である。研修の準備は、総合的な学習の時間を中心に準備を行う。内容は、英語でのコミュニケーションを行うのはもちろん、ニュージーランドの文化や伝統、環境などを学ぶ、日本の伝統文化を紹介して交流を図ることである。

もう一つは、当校はモトエカ高校と姉妹校であり、交換留学事業を展開している。

② 地域連携

地域連携では、高校が地域に貢献するために5年前より「町施設における学校祭」を開催している。継続して行うことで年々町民の認識度が上がってきたようで、来客数が増加している。地域住民と生徒全員が直接にコミュニケーションをとれるよい機会となっている。

他に各教科での取り組み例は、家庭科で行っている「じゃがいも選手権」では、清里町の特産品であるじゃがいもを使用した新しいレシピを開発し、地域イベントで出店して、清里町のアピールを行っている。体育科では、斜里岳ロードレースへの選手参加、ボランティア参加を募り、地域イベントに貢献している。

③ その他

各種行事の中では、防災学習（避難訓練、赤十字出前授業、AED講習、交通安全啓発）、環境美化活動として、地域の清掃活動、花壇の作りなどを行っている。



① の写真（日本の文化発表）



② の写真（地域施設で行う学校祭）



② の写真（家庭科で開発したじゃがせん）



③ の写真（AED講習）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

教材としては、なし。
教員の参考として、ユネスコスクールウェブサイトや活動事例集を活用。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールの活動は、ホールスクールアプローチとして位置づけており、本校の特色でもある「国際理解」、「地域連携」を中心として、ＥＳＤの実践を通して育成したい能力を観点とした授業実践・改善やキャリア教育、各種行事を行っている。ただし、地域連携については、ボランティアや環境などの複数の要素を取り込んだので現在内容を精選中。

次年度は、環境に関するテーマを具体的に実践できるように３学年で「環境科学」という科目を立ち上げる。本校のみの研究ではなく、地域の大学と連携も視野に入れている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校の特色ある教育を打ち出すために、定期的・同時期に活動テーマの見直しを行っている。具体的には、学期末時前後の職員全体でその学期、または学年末の活動を総括する会議が主である。今年度は、学期の途中で校長の諮問機関としての委員会を設け、本校の特色を審議したので、これに合わせ担当者でも体制や環境に対して、整備を行った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

現在、活動計画内容に一部調整中のものもあるので、内部評価については、アンケート等の方法では、行っていない。記述意見を参考にしたり、会議での発言を参考としている。

成果としては、活動テーマを絞ることで本校の特色を絞れたことである。課題は、担当者以外の意識の向上である。次年度は改善に向けて、取組を行う予定である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

学校の特徴を理解してもらうために、地域広報誌への学校通信を月１度配布している。他にホームページの更新をできるだけ行っている。ただ、「ＥＳＤの推進拠点として」という意識はなかったので、今後検討する。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ＥＳＤ活動支援センター、ＥＳＤコンソーシアムとの連携など）（２００字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

平成２７年度から今年度まで「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」を行い、町内小中学校、町教育委員会、商工会議所などとの連携をしてきた。地域の声から「何らかでの継続の形を。」という声に応えるべく、本校では、次年度よりコミュニティスクールの導入を検討して、現在要望を出している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

現在は本校内の取り組みの充実に時間を多く割いているため、時間的な余裕、担当者の負担を考え、取り組んでいない。適切な時期を見計らって、検討する。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

「地域連携」というテーマにしたことで、具体的な活動内容を教員がイメージしやすくなったことと、もともと協力的な地域であったことからユネスコスクールの活動の心理的ハードルが下がった。色々なキーワードを包括的に扱いながら、ESDの実践ができるので、今後の活動を創意工夫のある活動にしていきたい。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

基本的な活動テーマ「国際理解」と「地域連携」について、同様の活動を継続する。「地域連携」のテーマは、ユネスコスクールのキーワードを包括的に扱っているので、ボランティアや環境、伝統文化・芸能などのキーワードの整理を進めることで、活動内容の評価までを適切に行えるように整備する。新たに「環境科学」という教科も始まる年度となるので、より効果的に活動が展開するように調整する。

その他に担当者以外の教員の理解が、まだまだ十分ではないこととホールスクールアプローチをよりよく機能させるためにも、理解の浸透を図る具体的な対応について、検討し具体案を出しながら取り組んでいく。